|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **申請者名** | ○○△△ | **養成課程** | ○○大学大学院遺伝カウンセラーコース |
| **症例番号** | ログブックの症例番号 | **家系図** |
| **実施施設** | ○○大学遺伝子診療部 | ＜記載上の留意点＞1. 家系図の内容が判読に耐えるよう鮮明に記載する

　⇒注）家系図が欄におさまらない場合には、「別紙記載」と明記して、様式gc-rgc-3を添付する②家系図記載法に従って記載する（Standardized Human Pedigree Nomenclature: Update and Assessment of the Recommendations of the National Society of Genetic Counselors. Robin L. Bennett et al., J. Genet. Counsel. (2008) 17: 424-433）③必須記載事項・作成日、場所/情報提供者（家系図内番号記載）および情報収取者/家系図作成者・●■等は凡例を併記・家系図記載法にない記号や略語を使用した場合は、その旨を記載する　　　　　　　　・申請者が記載する（他人が記載した家系図のコピーは不可）・3世代以上の記載が望ましい |
| **実施年月日** | 西暦2021年１月28日（～西暦2021年3月　1日） |
| **時間、回数** | 60分1回目、45分2回目 |
| **領域** | ログブックの領域と同じ（すべての領域をバランスよく選択、各２症例は必要） |
| **遺伝カウンセリング担当者** | 〇〇臨床遺伝専門医/△△認定遺伝カウンセラー® |
| **来談理由** | ①確定診断②遺伝学的検査の結果開示③挙児希望への心配と対応 |
| **疾患・診断名** | Lynch症候群、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC)　など |
| **来談者** | 〇歳男性（家系図番号：　　　　）母親（家系図番号：　　　　） |
| 遺伝カウンセリングの内容は以下の(1)～(8）に区分して、簡潔に記載すること。(1)来談理由、(2)遺伝カウンセリングに至るまでの経緯、(3)クライエントの情報、(4)遺伝カウンセリングの具体的内容：提供した情報など、(5)クライエントの様子、(6)アセスメント・今後のプラン、(7)スーパービジョン、(8)感想＜記載上の留意点＞注1）来談理由は、主要なものから順に箇条書きが望ましい。注2）疾患・診断名は例）遺伝性乳癌卵巣癌症候群（hereditary breast and ovarian cancer syndrome：HBOC)　Lynch症候群　など、人名は英語を用いる。注3）個人情報には細心の注意を払うこと。固有名詞での特定ができないように記載する　例：A病院、B医師、C外来(1)来談理由：上述のように確定診断、保因者診断、次子についての相談等、主訴に対応する理由を簡潔に記載する。(2)遺伝カウンセリングに至るまでの経緯：他科（施設）からの紹介、インターネットでの検索など。(3)クライエントの情報：遺伝カウンセリングに必要となる年齢、性別、職業等の属性、病歴、家族歴等を記載する。(4)遺伝カウンセリングの具体的内容：クライエントに提供された情報など遺伝カウンセリングで扱われた内容について、詳細に記載する。(5)クライエントの様子：遺伝カウンセリングで見られたクライエントの状態、反応等について記載する。(6)アセスメント・今後のプラン：クライエントの遺伝医学的状況と心理社会的状況に関する情報提供前後のアセスメント（見立て・評価）や、そこから考えられる今後の遺伝カウンセリングのプランを記載する。(7)スーパービジョン：実施担当者との遺伝カウンセリングの振返りや、実施担当者から受けたフィードバックの内容を記載する。(8)感想：スーパービジョンを経て、当該遺伝カウンセリングについて考えたこと。　　 |
| **遺伝カウンセリング担当者、スーパ―ビジョン担当者署名** | GC:〇〇臨床遺伝専門医/△△CGC　SV:〇△先生/△△CGC |